

地域アゴラの意義と実践デモクラシー 奥村

投票に行くだけがデモクラシーではありません



2020 OECDレポート

デモクラシーのイノベーション 熟議の波をキャッチする



何を変えたらいいのか

- **1. 賛成権の範囲を拡大する**
 - 選挙の時だけから政策プロセス全般に市民が関与
 - アジェンダ設定→事実確認→政策案作り→提言 + 実行
- **2. 市民の意見の質を高める**
 - 熟議（スロー思考）を重ねる 個人においても集団においても
 - 時間をかけ、行き当たりばったりではなく考えをよく深めて本質に迫り、理性的に選択できる状態になることによって終わる思考の一形態
 - アリストテレス
- **3. 社会の縮図をより反映した議員代表制にする**
 - 選挙ではない「くじ引き民主主義」 それでも熟議は必要

ではどうやって実現する

- **そこで登場するのが熟議 + 民主主義の「熟議民主主義」**
- **市民が熟議を重ねて政策案を提示（ここまでが従来の熟議民主主義）**
- **プラス一部実行したりする（実践民主主義 奥村）**
- **実行が含まれて市民の責任感とやる気生まれる**
- **この反映で議会や行政もより真剣に政策（市民だけではできない部分）に取り組む**

熟議民主主義いろいろ

- 市民陪審、市民集会（会議）、プランニングセル、熟議型世論調査…
- まとめて「ミニパブリック」ともいう
- OECDの統計では世界に570ほどあり 実際はもっとある

熟議民主主義の例としての気候市民会議

- **世界に広がる気候市民会議**
 - フランスと英国から始まった 進め方は熟議民主主義
- **日本でも急速に広がりつつある 現在15の地域で取組み**
 - 2020年札幌市、2021年川崎市、2022年武蔵野市、江戸川区、所沢市、
 - 2023年多摩市、厚木市、日野市、つくば市、逗子市・葉山町、仙台市、松戸市、横浜市青葉区、さいたま市浦和美園駅周辺、2024年杉並区（予定）
 - 全国に広がって欲しい
 - https://citizensassembly.jp/project/cd_kaken/jp-list

熟議民主主義のプロセス（例）

STEP	ねらい	方法
①	メンバー招集	社会の公平な縮図をつくる
②	学習	対象分野の偏りのない事実と政策案を理解する
③	熟議	参加者全員が公平に意見を出し合い異なる意見を聞いて熟考する（当初の意見が変わることあり得る）
④	まとめ	グループごとに提言や行動指針をつくる
⑤	政策への反映と実行	単に議会や行政に提言をして終わるのではなく、市民自身もやることとまとめる

熟議民主主義の課題 1

- 熟議は大人数には向かない
 - 一グループせいぜい20人位か（それでも多い ワークショップとしては5－10人）
- ファシリテーターが不可欠 だが人がいない
- ➡この克服にDXやAIを使う まだ未開拓
- ➡各地に多くのグループを作り集約する ここでも技術が有用
- ➡熟議の議論を公開しメンバー以外の意見を反映する ここでも技術が有用
- ➡参加者は多くないと予想 そして継続せずアドホック
- ➡実践民主主義の登場 さらに参加が増える仕組み必要
- ➡資本主義の改良も目指す 新しいCSR（社会人の参加を促すワーク・ライフ&ソーシャルバランス（WLSB）のすすめ）

熟議民主主義の課題 2

- 既存の制度とどう結び付けるのか
 - 議会や行政が熟議民主主義の結果を尊重する仕組み
 - 市民、議員、行政の肩書を忘れる場 = アゴラ
 - 市民の実践を後押しする環境 = WLSB + アゴラ

みんなで創り上げる
実践民主主義

未完に挑戦！

まずは地域アゴラ(現代版寄り合いをつくる)

変わる市民

地域のことは自分ごと

意見交換の原則 1
誰もが自由に公平に

場が必要
昔の境内・縁側

変わるNPO

自分も一市民

変わる企業

自分も一市民

地域アゴラ

変わる行政

プラットフォーム

みなで決めたことは
お互い実行する

意見交換の原則 2
深く考え熟議する

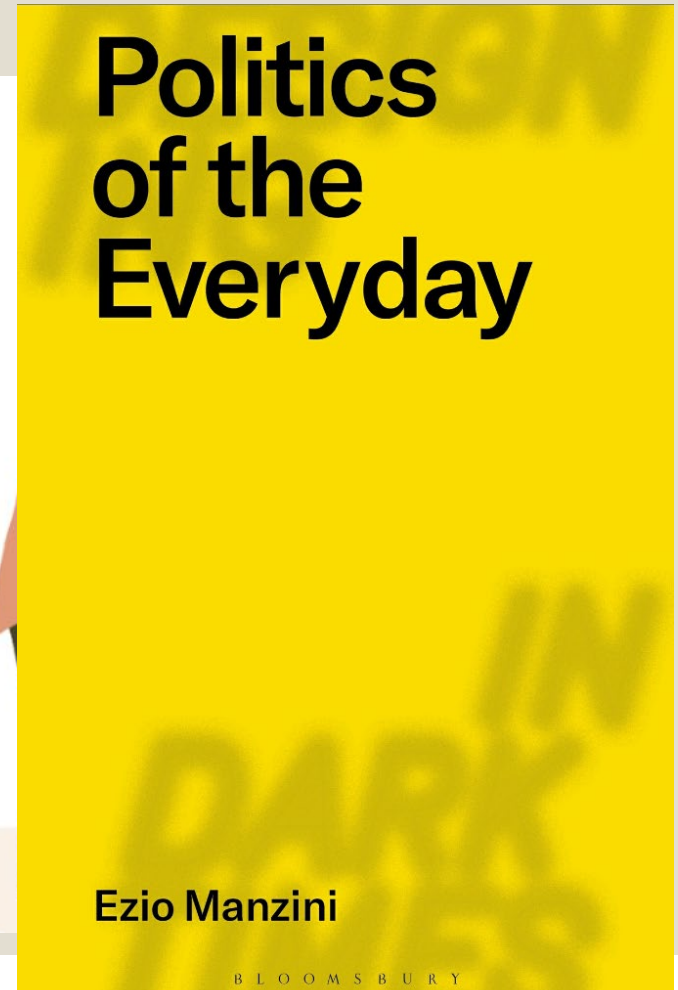
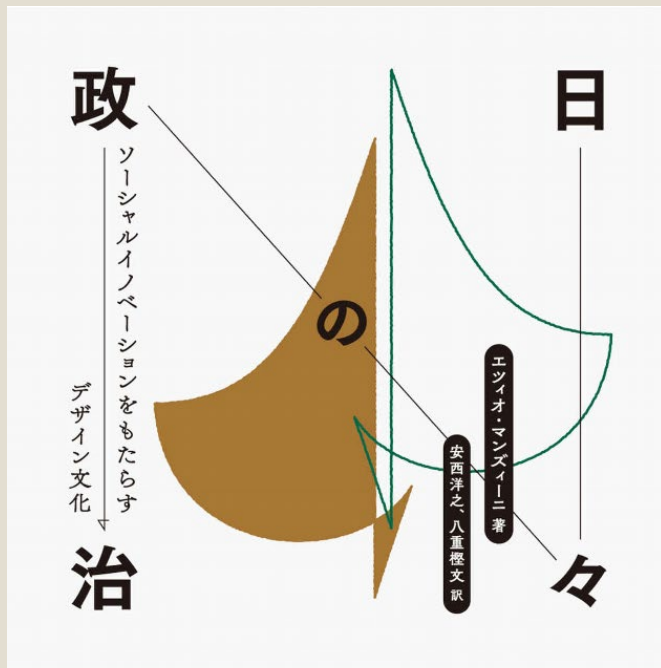
公共空間を育む土壌としての 地域アゴラ

COGのコンテス
トではありません
が、
各地で地域アゴラ
の具体例を探した
いと思っています



市民・学生と行政
の心理的な距離を
どう取り除いて立
場の違いを意識し
つつも、まずはか
みしもを脱いで
（肩書を一旦わき
において）、
地域社会のために
どう協働ができる
のかの契機にでき
ればと思います

実践民主主義の登場 著者はイタリアの著名なデザイン思考家



デザインが持つ問題解決力と意味形成力、それらをいかに育み文化として根付かせていくか——

サービスデザインとサステナブルデザインの世界的リーダー エツィオ・マンズイーニが説く、社会変革(ソーシャルイノベーション)を実現する「プロジェクト中心民主主義」への道筋。

私たちが、
変えることができる。

BNN
Big Name Network

次世代民主主義を考える軸振り返り

社会の縮図

議論の過程

参加者の属性

選挙代議制

ポジショントーク
相手に勝つ議論

職業政治家

無差別抽出
代議制

熟議（理性）
当事者を含む社会
の幸せ

普通の市民

随所でデジタル化の影響

専門家の役割とは？

意見交換 20分

- 熟議民主主義
- 地域アゴラが実践デモクラシーを支える
- 審査委員有志、COG参加市民・自治体有志